

ミクロ・マクロ経済学演習 基礎力チェック

2013.9.25 担当：河田

学籍番号 _____

氏名 模範解答 _____

1. つぎの連立方程式の解を求めよ。

$$\textcircled{1} \begin{cases} y = 2x + 1 \\ y = -\frac{1}{2}x + 6 \end{cases}$$

$$\textcircled{2} \begin{cases} y = \frac{1}{2}x \\ y = 300 - x \end{cases}$$

$$2x + 1 = -\frac{1}{2}x + 6$$

$$\frac{1}{2}x = 300 - x$$

$$2x + \frac{1}{2}x = 6 - 1$$

$$\frac{1}{2}x + x = 300$$

$$y = \frac{1}{2}x$$

$$\frac{5}{2}x = 5$$

$$\frac{3}{2}x = 300$$

$$= \frac{1}{2} \times 200$$

$$x = 2$$

$$y = 5$$

$$x = 200$$

$$= 100$$

$$y = 100$$

2. x と y が $y = 0.8x + 300$ という関係であるとする。 x が 30 増加した時、 y はいくつ増加するか。

増加分を考えると、 $0.8 \times 30 = 24$ である。 答 24

分かりにくい場合、例えば x が 100 から 130 に増加した場合などを考えてみよう。

$$x = 100 \text{ の場合、} y = 0.8 \times 100 + 300 = 80 + 300 = 380$$

$$x = 130 \text{ の場合、} y = 0.8 \times 130 + 300 = 104 + 300 = 404$$

となり、 $404 - 380 = 24$ の増加である。

3. 完全競争市場において、ある財の価格を p とすると、需要曲線が $D = 60 - p$ 、供給曲線が $S = 2p$ で表されるとする (D は需要量、 S は供給量)。これで均衡が成立するとき、

① 均衡価格と均衡需給量を求めよ。

均衡が成立するのは、 $D=S$ のときであるので、

$$60 - p = 2p \text{ のときである。これをとくと}$$

$$60 = 3p \text{ すなわち均衡価格 } p = 20 \text{ となる。}$$

均衡需給量は $S = 2p$ に $p = 20$ を代入して、 $2 \times 20 = 40$ となる。

答 均衡価格 20、均衡需給量 40

② 均衡点における需要の価格弾力性を求めよ。

答 $\frac{1}{2}$

本日の講義で詳しく説明します。